

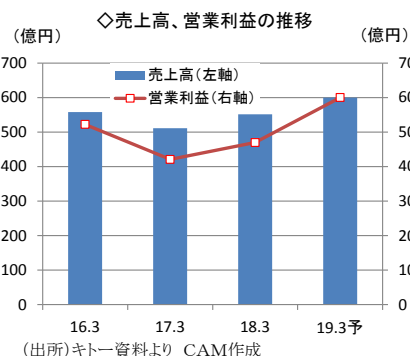
企業ニュース キトー

(東証1部：6409) <https://www.kito.com/jp/>

作成者：奥村義弘

巻上機の国内トップ企業

1932年創業。建設現場や工場で資材の持ち上げなどを行う巻上機の国内トップメーカーで、チェンブロック、レバーブロック、ロープホイスト、クレーンなどの製品を取り扱う。M&Aにも積極的で、当面の成長けん引市場を北米、中国と位置づけ事業を拡大、現地生産化を推進中。またアジアでの成長機会を獲得すべく積極的に資源を投入している。19.3期・第3四半期累計のセグメント別売上高構成比は日本26%、米州47%、中国12%、アジア8%、欧州4%、その他3%。高収益体質への回帰、製品ポートフォリオの拡充による成長、真のグローバル企業への組織進化を柱に、21.3期のEBITDA（税引前利益に支払利息、減価償却費を加えて算出される利益）を130億円と16.3期の約2倍増を目指す。



旺盛な投資需要を背景に高増益率を見込む

19.3期・第3四半期累計（4-12月）の連結業績は売上高が437億3,700万円、前年同期比13%増、営業利益が46億9,500万円、同80%増。地域別には売上高の約半分を占める米州が同9%増収。資源関係を始め、製造業の設備投資やインフラ関連需要も底堅く推移した。中国では対米貿易摩擦による減速懸念はあるが、半導体・EV向けに加え、インフラ、その他産業の需要を捉え同20%増収。損益面では旺盛な需要に伴う増産体制を継続、基幹システムの安定運用による生産効率の向上、M&Aにより取得した欧州子会社との相乗効果を拡大させ、大幅な増益となった。

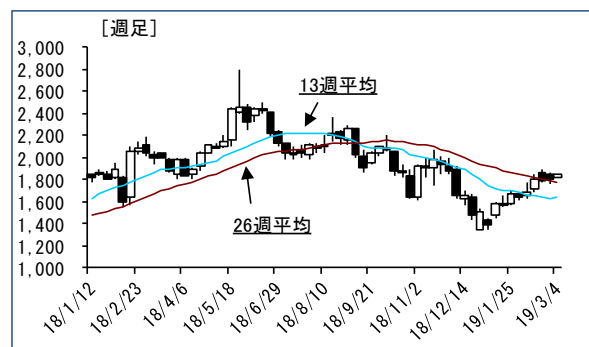
19.3期の会社計画は売上高が600億円、前期比9%増、営業利益が60億円、同28%増。為替前提は1ドル=110円。国内は、インフラの老朽化対策や災害復興関連などの公共投資に加え、民間設備投資が堅調で、前期比12%増収を見込む。米州は、インフラ整備に加えて、エネルギープラント向けに堅調な需要の継続で、同5%増を見込む。中国は半導体・EV、電力・鉄道など好調産業の需要がけん引している中、さらなる景気刺激策を期待し同12%増収を計画。欧州では幅広い産業で緩やかに需要は拡大しており、同75%増収を計画する。

[株価動向・投資判断]

株主還元方針は、配当性向20%以上をめどに年間配当額を33円から40円に増配することを予定している。利益成長に沿った継続的な増配が続いていることも好感できよう。

<6409 キトー 業績:日本基準> [今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.3	51,141 (▲ 8)	4,208 (▲ 19)	3,249 (▲ 29)	1,897 (▲ 24)	82.4	28.00
18.3	55,168 (8)	4,698 (12)	3,791 (17)	2,836 (49)	139.5	33.00
19.3 予	60,000 (9)	6,000 (28)	5,700 (50)	4,000 (41)	195.9	40.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)

株価(2019/3/4)	1,843 円
昨年来高値(高値日)	2,787 円(18/5/23)
同 安値(安値日)	1,339 円(18/12/25)
予想 P E R (19.3 予)	9.4 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,226.1 円
P B R	1.50 倍
予想配当利回り	2.17 %
(1株当たり配当金40.00円)	
R O E (18.3)	13.2 %
発行済み株式数	2,705 万株